

Petit Salon du Kansai Vol. 7

第7回

プチ・サロン・デュ・カンサイ

チェンバロとピアノでつづる

ヨーロッパの旅

～バロックから印象派へ～

On y va! La Voyage dans l'Europe

sur le piano et le clavecin

- du Baroque au Impressionism

とき：2017年7月9日(日)

PM2:00~4:00

(開場 PM1:00)

ところ：関西ピアノ専門音楽学校内

シヨパン・ホール

会費：1名 前売¥1,500

(ワイン・ドリンク・菓子等 込)

当日¥1,800

(ワイン・ドリンク・菓子等 込)

主催：関西ピアノ専門音楽学校

菓子協力：パティスリー・ピュール・ド・ソソギ

★予告：第8回プチ・サロン・デュ・カンサイは、

2017年12月上旬の日曜日を予定しています。

詳細は2017年10月初旬に本校HPおよび本校校門横

掲示板でお知らせいたします。

ご期待ください！





福田可織 *Kaori Fukuda*

東京音楽大学附属高校、大学を経て同大学研究科ピアノ・ソロコース修了。チェンバロ聴講生。

フライブルク音楽大学大学院を首席で卒業。Diplom 取得。

ケルン音楽大学 Konzertexamen 科を首席で卒業。ドイツ国家演奏家資格取得。

吹田音楽コンクール入賞、ピアノ教育連盟オーディション奨励賞、クラシック音楽コンクール全国大会審査員特別賞、KACC 公開オーディション合格、福岡国際音楽祭2等賞、神戸芸術センター記念コンクール入選、招聘賞など受賞。

フォルテック管弦楽団、エストニア・ペルヌ オーケストラ、スロバキア・プラチスラヴァ・カンマーオーケストラと共演、日本、ヨーロッパ各地にて演奏活動を行う。

これまでに正田瑞子、河野美砂子、宮崎和子、弘中孝、東誠三、コロディン、サッス、ヴァルドマ、チェンバロを渡邊順生、ヒル、バーリンガー、フォルテピアノをハンビツァー、室内楽をシピリの各氏に師事。

プログラム

チェンバロとピアノでつづるヨーロッパの旅～バロックから印象派へ～ 2017.7.9

★はチェンバロ演奏

【バロック】

ラモー	(フランス)	1つ目の巨人★
ソレール	(スペイン)	ソナタ R.371★
スカルラッティ	(イタリア)	ソナタ K.1★
ヘンデル	(ドイツ)	愉快なかじや (チェンバロ組曲第5番より Air) ★

【古典派】

ベートーヴェン	(ドイツ)	ピアノソナタ第14番 Op.27-2 “月光” I アダージョ・ソステヌート II アレグロ III プレスト・アジタート
---------	-------	--

【ロマン派】

リスト	(ハンガリー)	愛の夢 (3つのノクターンより第3番)
ラフマニノフ	(ロシア)	前奏曲 Op.3-2 “鐘”

【印象派】

ドビュッシー	(フランス)	月の光 (ベルガマスク組曲より第3番)
--------	--------	---------------------

-----pause-----

【バロック】

バッハ	(ドイツ)	イタリア協奏曲 BWV971★ I (表示なし) II アンダンテ III プレスト
-----	-------	---

【古典派】

ハイドン	(オーストリア)	チェンバロ・ソナタ Hob.XVI-1★ I アレグロ II アンダンテ III メヌエット
------	----------	---

【ロマン派】

ショパン	(ポーランド)	スケルツォ第2番 Op.31
------	---------	----------------

【印象派】

ドビュッシー	(フランス)	(前奏曲集第2巻より第12番) 花火
--------	--------	-----------------------

プログラムノート

チェンバロとピアノでつづるヨーロッパの旅～バロックから印象派へ～ 2017.7.9

♪ラモー (1683~1764) 後期バロック時代のフランス最大の作曲家。教会オルガニストや歌劇の作曲家として名声を得た。

一つ目の巨人：描写的な標題をもつ多様な性格曲を集めたクラヴサン曲集第2巻の第18番。激しい音の動きと感情、印象的な鍵盤技巧を盛り込んだダイナミックな音楽。一つ目の巨人（キュクロプス）とはギリシャ神話に登場する「雷の精」だったのではないかといわれる。稲光、落雷、地鳴り、岩が投げ落とされるなど描写されている。

♪ソレル (1729~83) スペイン・カタルーニャの作曲家。オルガニスト。聖職者で6才から音楽の伝統を誇るモーセラート修道院で教育を受けた。マドリッドでD.スカララッティに学びチェンバロ・ソナタの様式の影響を強く受けたが独自のスペイン色も示し、面白みを持つ。149曲のチェンバロ・ソナタを書いた。

♪スカララッティ (1685~1757) イタリア・ナポリ楽派の歌劇作曲家、チェンバロ奏者、オルガニスト。555曲のチェンバロ・ソナタを書いた。即興的で万華鏡のように多様・多彩だが、簡潔な2部形式からなる。鍵盤楽器から新しい可能性と魅力を存分に引き出した。

K.1：終始16分音符が華麗に続く。冒頭は厳格な平行カノン風、そのあと自由な2声ポリフォニーに発展。伴奏音型は3度重音が刻まれる。

♪ヘンデル (1685~1759) バッハと並ぶバロック後期の作曲家。ドイツ生まれだが後イギリスに渡った。鍵盤楽器の名手でオペラ、オラトリオの作曲もした。

エアと変奏曲<愉快なかじや>：民謡風な旋律のテーマと5つの変奏。曲がすすむにつれて基本の旋律が次第に細かな音符に細分、装飾される。

♪ベートーヴェン (1770~1827) ボン生まれの古典派の作曲家の一人。ナポレオンがヨーロッパ制覇した時代、ベートーヴェンは自由な芸術家としての自己を確立した。

月光ソナタ：“幻想曲風ソナタ”のタイトルをもつ。「月光」というタイトルはベートーヴェンがつけたものではなく、詩人レルシュタープが”湖の月夜にさざ波にゆらぐ小舟のようである”と語ったことからつけられた。Ⅰ：静かな主題が歌われる。Ⅱ：スケルツォ風のダ・カーポ形式。Ⅲ：ソナタ形式。内容的充実がおかれこのソナタのクライマックス。

♪リスト (1811~86) 19世紀最大のピアニスト。作曲家。ピアノのVirtuoso（ヴィルトゥオーゾ：達人の域に達した超一流の演奏家のこと）芸術の確立者。

愛の夢：原曲は歌曲。現在では歌曲としてよりもピアノソロとして演奏されることが多い。ドイツ・ロマン派の詩人フェルディナント・フライリヒラートの叙情詩“愛しうる限り愛せ”に作曲した。「愛の時は短いから愛し得る限り愛せよ」という内容で歌曲の旋律がカデンツァをはさんで繰り返される変奏的な音楽。

♪**ラフマニノフ** (1873~1943) チャイコフスキーの影響を強くうけたモスクワ楽派の様式を守りピアノ曲を中心にしたあらゆる分野の作品を残す。ロシア革命でスイスに亡命。その後はピアノ・ヴィルトゥオーゾとしてヨーロッパ、アメリカで活躍。

鐘：モスクワ音楽院を卒業した翌年に作曲しこれが出世作になった。冒頭の荘重な主題はモスクワのクレムリン宮殿の鐘の音にインスピレーションを受けた。

♪**ドビュッシー** (1862~1918) 古典派によって確立された長調、短調の概念を崩壊させ、また感情過多なロマン派の音楽を好まず、モネ、マネら印象派の画家やボードレールやヴェルレーヌら印象派の詩人に共鳴し事物の幻想的なイメージを音で捉えることに務め印象派の音楽が誕生した。

月の光：ドビュッシー初期の傑作。ヴェルレーヌの詩集“雅びた宴”でベルガマスクという言葉が出てくる題名が「月の光」。洗練された豊かな色彩と幻想的な美しさを持っている。

花火：前奏曲集は1, 2巻共にドビュッシーの最高傑作の1つでフランスのピアノ音楽の集大成でもある。ヴィルトゥオーゾ風の華やかな曲。7/14パリ祭の花火が描かれ最後にフランス国歌<ラ・マルセイエーズ>の一部が少し現れる。(本日の最終演奏曲)

♪**バッハ** (1685~1750) バロック音楽の頂点に立つ音楽家として大バッハと呼ばれる。宗教曲、管弦楽曲、協奏曲、室内楽曲、鍵盤楽器曲に膨大な作品を残している。厳密な対位法に基づいた多声部音楽を展開した。

イタリア協奏曲：音楽形式と情緒内容は完全に均衡を保った傑作。チェンバロ独奏だけによって協奏曲のソロとトゥッティ（合奏）のかけ合いを実現した名作。2段鍵盤チェンバロの音色と音量の対比できる機能が巧みに生かされている。Ⅰ：主題の展開が華やか。Ⅱ：ソロヴァイオリン風の旋律が細かな装飾と共に息長く歌い継がれていく。Ⅲ：ロンド風構成でソロとトゥッティの対比が華麗に示される。

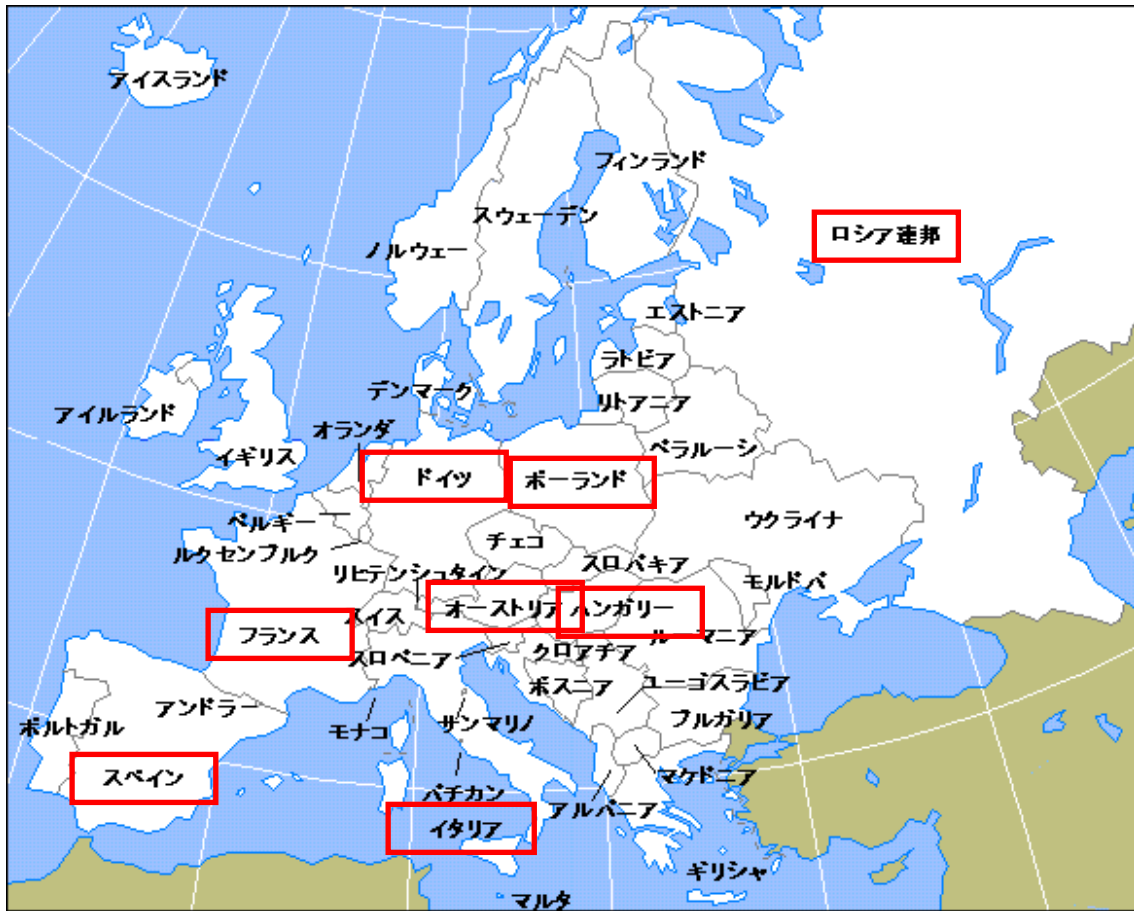
♪**ハイドン** (1732~1809) ウィーン古典派の中心人物の一人。彼の作品には力強い精神性がうかがわれる。

チェンバロ・ソナタ：ハイドンの初期のソナタはチェンバロやフォルテピアノのために書かれている。Ⅰ：右手の軽快な動きと左手の分散和音の伴奏系が特徴の2部形式。Ⅱ：シンプルなアンダンテ。Ⅲ：メヌエットトリオのダ・カーポ形式。

♪**ショパン** (1810~1849) ロマン派のピアノ音楽に新しい境地（ノクターン、プレリュード、ワルツ、マズルカ、ポロネーズ、バラード、アンプロンプチュ、ファンタジーなど）を開いたポーランドの作曲家。

スケルツォ：本来は軽い冗談のような性格の作品を指す。スケルツォ4曲の中で最も頻繁に演奏される。聴き手と弾き手をあきさせない音域、強弱、緩急、静寂からクライマックスへの感情の高揚などあらゆる表現が幅広く、緊迫したドラマの中に美しい旋律が縦横に織りこんだ傑作。

【今回ヨーロッパを巡る国】



【バロックダンスの衣装】

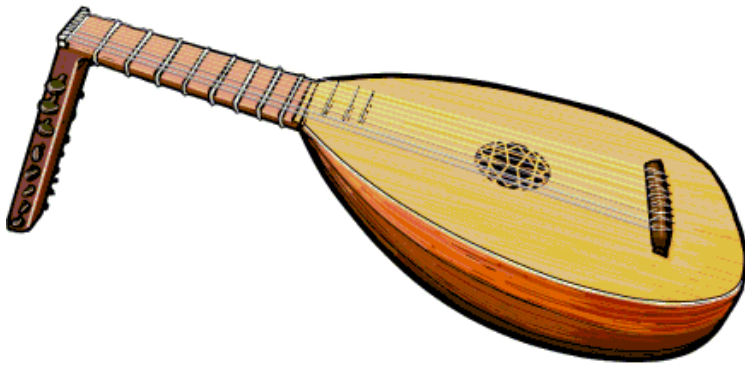


「かつら」を被り

袖にはフリル

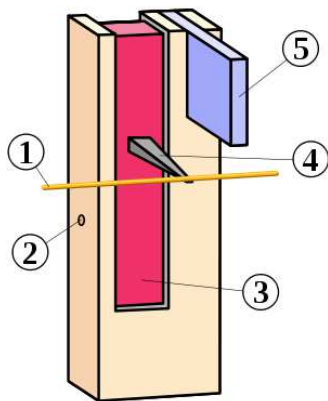
<出典> 「ダンスから音楽の表現を学ぼう」

【古楽器 リュート】



<出典>私家版楽器事典

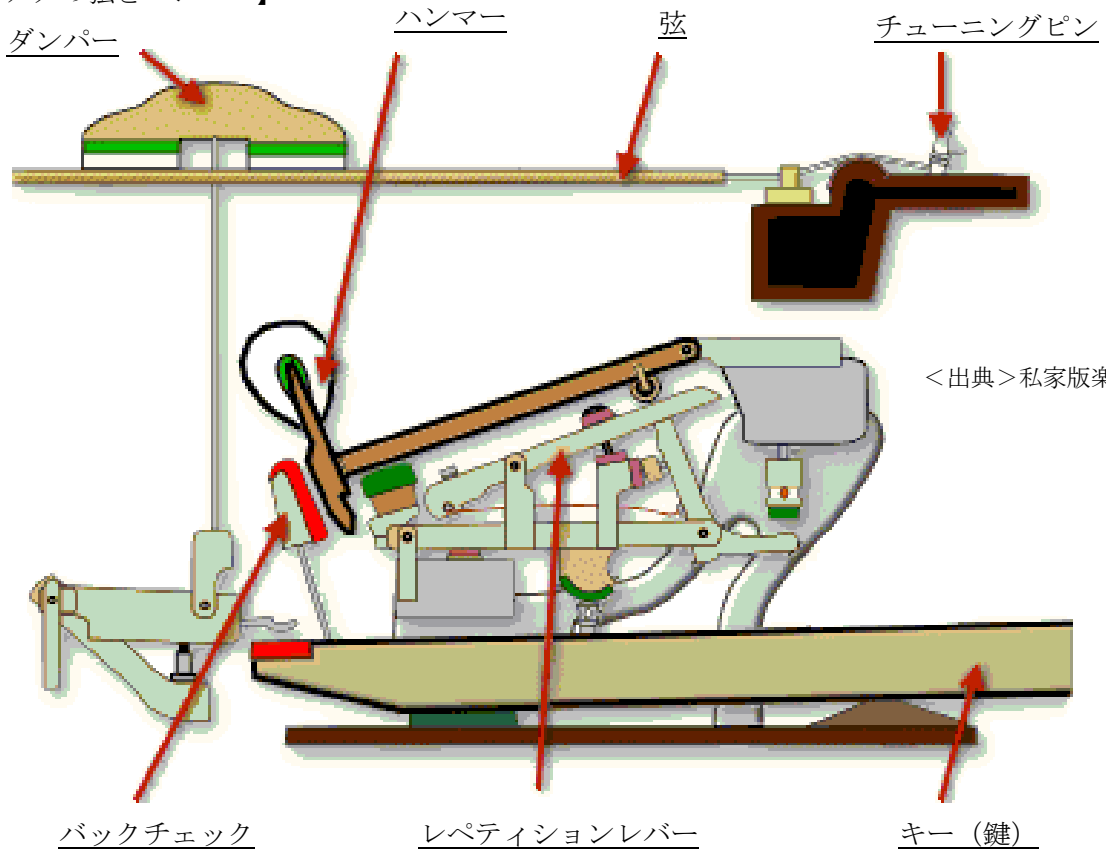
【チェンバロの弦と爪】



- ① 弦
- ② タングの軸
- ③ タング
- ④ プレクトラム (爪)
- ⑤ ダンパー

<出典>ウィキペディア

【ピアノの弦とハンマー】



<出典>私家版楽器事典